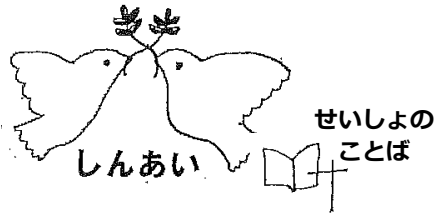


2023年度 5月 8日



オ リ ー フ 通 信

主よ、お話しください。僕は聞いております。

サムエル記上3章9節
神愛保育園

5 月をむかえて

進級、入園から早くも1か月が経ちました。心地よい風の吹く中で、お散歩を楽しんでいる子どもたち。新しいお友だちの存在や大人にもすっかり慣れてきているようです。

ゴールデンウィークも終わり、長いお休みをおうちで迎え、保育園に戻ってきた子どもたち。まだまだ時には不安になったりする姿もあり、この5月は、行きつ戻りつの姿が見られるでしょう。しかし、確実に子どもたちは園の生活、新しい仲間や周りの大人を身近に感じています。4月から、保護者の方に保育室に入ってもらい、やっと日常がすこしずつ戻ってきた感があります。子どもたちの様子を知っていただくためにも、ぜひ、クラスの子どもたちとも触れ合ってみてください。子どもたちの姿を知っていただくと同時に、保育園活動の様子も見えていただければと願っています。

さて、昨年来「不適切な保育」という形で様々な問題が報道されるようになりました。当園としても予防に努め、また、今年度の保育内容の再検討をする過程で従来は良しとされてきた活動や保育の中にも「不適切な保育」につながりかねないものに対しては改善を図っていきます。以下に、今後大切にしたい内容を記載いたします。

まずは、行事です。神愛保育園では以前から子どもたちの気持ちを大切にしながら、行事をすすめてきています。そのため、今後も行事は、子どもたちの日常活動の延長と位置づけ、「見せる」視点から「完全」を目指すことは行いません。

次に、食事についてです。食物の味、みんなで食べる楽しさを感じていく場で無理をさせることは、食にまつわる感情発達の妨げとなります。また、苦手なものを食べさせたり、早く食べさせたりすることは誤嚥窒息の危険にもつながりかねません。今後も、食事は無理をさせず、苦手なものを食べてみようとする気持ちを育て、子どもが自分で食べられる量を判断できるようにしていきます。

そして、午睡についてです。午睡は体を休め、眠気を払うものであって、夜間の熟睡が子どもの発達には最も重要であることは言うまでもありません。そのため、今後特にひまわり組の子どもには、午睡を無理にさせず、一方眠気を感じたら子どもが自分で判断して、休める環境をつくっていきます。保育の中で、常に子どもが自分で判断できるようなかかわりを増やしていく方向で保育をすすめていきます。

保護者の皆様には、以上の点をご理解いただき、今まで以上に、子どもたちが自分から様々なことに取り組んでいけるよう、自分で行動を選んでいけるよう皆で後押ししていきます。

神愛保育園園長 鵜澤由記子

江東区では、2022年から拠点園方式の「休日保育」を実施しています。今月号の最後のページにしおりを載せています。書類は、園にありますので、声をかけてください。





食事だより



神愛保育園では以下のことに配慮して食事を提供しています

☆国産の食材を主に、無添加の調味料を使用しています☆

お米は栃木県産と秋田県産の2か所から取り寄せており、1歳～5歳クラスまでは五分づき米を使用しています。（雑穀も一緒に炊き込んでいます。）その他にも、近隣の八百屋さん、お肉屋さん、魚屋さんからその日に市場で仕入れてきた新鮮な食材を納品して頂いています。調味料は生協の国産の食材を使用した無添加のものを使用しています。

☆ごはんが中心の和食献立を多く取り入れています☆

パンや麺のメニューはおやつも含め、週2～3回を目安に組み込んでいます。季節（旬）や行事に合わせたメニューや、郷土料理なども取り入れています。（郷土料理は月に一回です。献立表に記載しています。）

☆保育園での栄養目標に準じた献立を作成しています☆

4月は1日平均でたんぱく・もも組 約500kcal ちゅうりっぷ・ひまわり組 約600kcalを昼食とおやつから摂取できる様にしています。身長・体重の成長にあわせて、栄養価など見直しながら園の特色を生かした食事内容を検討しています。

☆毎日だしを取り、おいしく体に優しい食事を提供していきます☆

だしは国産で自然食の干し椎茸、天然の昆布、ブレンドの厚削りを使用しています。離乳食では素材の味を生かし、調味料は少量で段階に合わせて使用します。乳幼児食もただ薄いだけで味気ない食事ではなく、旨味を感じられる塩分を考えながら味付けをしています。（塩分濃度は0.6～0.7%を基準値とし、調理室全員で味見をしています。塩分計も使用しています。）

☆果物は国産の物と生協の有機栽培の物を使用しています☆

神愛保育園では昼食に国産のフルーツのみを提供していましたが、価格高騰や誤嚥の危険性により年々提供できるフルーツの種類が限られてきました。そのため2021年度6月よりバナナ、グレープフルーツを使用しています。食材が安全である事をきちんと確認して使用する品種を限定した上で購入します。（購入先はパルシステムとコープデリです）厚生労働省の大量調理マニュアルの基準に従って提供しています。

調理室では以下の事を心掛けて食事を作ります

- その1. 園児はもちろん、園にお子様を預けて下さっている保護者の皆様の安心・安全の為に衛生管理の徹底をお約束します。
- その2. 既製品・化学調味料は極力使用せず、だしの風味を生かした優しい味を心掛けていきます。おやつも手作りのものを中心に提供していきます。

ご質問などありましたら、調理室にお声掛け下さい。2023年度もよろしくお願い致します。

保健だより 2023 年5月



4月は桜の便りから始まり、新入園・進級を祝う季節でした。新しい保育室・友達にも慣れ、子ども達の元気な声が聞かれています。5月は寒暖の差が大きい日が多く、服装選びに迷われることが多いかと思います。保育室のなかは大体21度～24度程度で、湿度は20%～30%前後です。室内での活動には、肌着にTシャツが向いています。

保健行事のお知らせです

5月26日（金）は歯科検診です。（歯科医師の都合で、年間予定表から変更になっています。申し訳ありません。）年一回の受診が定められています。虫歯だけでなく、噛み合わせや磨き残し・歯肉の炎症などを指摘されることもあります。ご家庭での観察をお願いする場合と、歯科医院での治療をお願いする場合があります。歯科医院での治療をお願いしている場合のみ、受診が終わりましたら結果をお知らせください。

5月9日（火）は全園児健診です。お休みをされた場合には、園医による0歳児健診が毎月第二火曜日にあるので、そこで受診します（年間2回の受診が定められています）。お子さんの身体の症状・発達についてなど気になる事がある場合には、担任にお声かけください。



～地域の親子と園児の交流～



ひだまりは年末年始と祝日・休日を除く月曜日から金曜日の午前10時から午後3時まで、地域の親子に開放している子育てひろばです。園舎とは少し離れた場所にあります。室内にはお子様向けのおもちゃ・絵本・お母さん向けの雑誌等が置いてあります。お子様が遊んでいる姿を見ながらお母さん同士がおしゃべりできるスペースです。

☆ 毎週月曜日、12時から13時はランチタイムを始めました。

今年度は少しずつコロナ前のように保育園の子どもたちとひだまりに遊びに来てくれる方たちとの交流を増やしていきたいと考えています。
今年度もよろしくお願いいたします。

橋本



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2023 年 4 月 5 日（水） 天気 晴れ たんぽぽ組（1 歳児）

進級して・・・

今日は A がももの部屋で受け入れが（初めて）だったので、クラスが違うことで泣いてしまい、それにつられて（初めてではない）B も泣いてしまう。B は新年度が始まり少し不安な姿が見られたが、クラスに戻ってきてからは安心するのか、顔の表情も緩やかになる。C が部屋でジャンプをしていると、D や E も真似しようとするが C のように両足でジャンプをすることができず、何度も 2 人は繰り返すが首をかしげて「どうしてなんだ？」とできるまで行っていた。新入園の F は泣くが昨日ほどの泣きはなく、入口からお友だちの様子をみていた。G も新しい職員に抱っこされ帰りに「バイバイ」と手を振ることもみせてくれた。

0 歳児の子ども達も早いもので 1 歳児クラスに進級しました。そして、1 歳児たんぽぽクラスには、新しいお友だちが 2 名増えて、少し集団が大きくなりました。この 4 月は、クラスの中に、様々な表情や気持ちを見せる子ども達が大人を介して、小さなグループを作りながら生活をしています。0 歳児から進級してきた子どもは、お互いのことがわかり、時には、お友だちの楽しみや不安に共感しながら、この 4 月を過ごしています。新しいお友だちは、初めての新しい環境の中で不安になり、泣き出してしまうことは当然のことです。

日誌には記載されていませんが、進級してきた子ども達は、毎日新しいお友達にとっても興味を持ち、近寄っていきたい、触ってみたい、一緒に遊びたいという気持ちでいっぱいです。ちょっとでも、チャンスがあるとチャレンジして近づいていき、しかし新しいお友だちに泣かれてしまいます。そして、次の仲良くなるチャンスを待っています。月齢の高い子どもが、新しいお友だちに鼻汁が出ていたからとティッシュを渡す場面が別の日の日誌にありました。このような子ども達の積み重ねが、新しいお友だちに安心感を与えているようです。

「できないかもだけど・・・」

A・B・Cと大縄跳びをした。前回、波跳びで10回跳べるようになったB。今日は、回転する縄を跳んでみると、コツを掴んだのか22回も跳ぶことができ、本児も周りの子どもたちも「やったね!」と喜びあっていた。すると、いつもは誘っても「見てるだけでいい」と言っているDがやってきて「Dちゃんもやってみようかな…」と遠慮がちに保育者に話した。「できないかもだけど、回すのがいい」と言うので、本児のジャンプに合わせて保育者が縄を回すと1回成功し、「また跳んでみる」と列に並びなおしていた。自信が持てるまでなかなか一步を踏み出せない本児の性格だが、今日はついに挑戦することができた。今まで跳べなかったBの姿を見てきたことの影響も感じられる。1度成功すると、引き続き挑戦する姿があるので、自信に繋がるように助言しながら、楽しめるようにしていきたいと思う。

ひまわり組の年長さんたちが長縄跳びに取り組む様子です。前回の長縄で自信をつけたBちゃんが意欲的に取り組む姿を見て「自分もやってみようかな…」と長縄のところへやって来たDちゃん。この時、まだちょっと自信のない様子が「できないかもだけど…」という言葉からうかがえますが、見事一回跳ぶことに成功! またチャレンジしようと再び列に並ぶDちゃんの姿から、大きな喜びと自信を得た事を感じる日誌でした。

幼児(5~6歳)になると、大人との世界だけではなく、子どもたち同士の世界(社会)が広がっていきます。友だちからの影響はだんだんと大きくなり、行動のきっかけや理由が“大人”ではなく“友だち”ということが多くなっていきます。そしてそれは、大人からの自立の始まりであり、仲間と協力をして生活を作っていく始まりでもあります(お当番活動であったり、話し合いであったり)。子ども同士の関わりは思い通りにいかない事も多いですが、葛藤しながらも挑戦したDちゃんの姿から、特に年長さんにとって“友だち”の存在がとても大きいことを改めて感じました。日々の関わりの中で揺れ動く気持ちを察しながら、次への一步に繋がる体験を見守り支えていきたいですね。

